

研究班番号【42】

十年前と現在のお笑い

国語班：森澤 太貴 中田 仁 日野 雄太

要約

本研究の目的は、十数年前と現在のお笑いの違いを明らかにすることである。実験（調査）によって、過去の方がボケの回数が多くなっているということがわかった。従って本研究では、十年前と現在でお笑いのスタイルに違いがあるということが結論付けられた。

Abstract

The purpose of this study is to clarify the comedy of a dozen years ago and now. Experiments (surveys) have shown that the number of blurs is higher in the past. Therefore, in this study, it was concluded that there is the difference between 10 years ago and now.

1. 序論

私たちは、関西人であれば日常でも多く使われるツッコミなどから、お笑いという文化に興味を持った。当初は「どのようなお笑いが面白いのか」について研究しようと考えた。しかし“おもしろさ”というのは人によって異なる主観的なものであり、研究の対象としては適さないと考えた。ここで、YouTube や Twitter 等の SNS 上で「昔の漫才の方がおもしろかった」等の過去と現在を比較する書き込みが多々見られた。そのことから私たちは十数年前から現在への漫才の形の変化について探ろうと考えた。

2. 研究手法

十数年前のお笑いとして M-1 グランプリの 2007 年優勝者サンドウィッチマン、2008 年勝者ノンスマイル、2009 年優勝者パンクブーブー、現代のお笑いとして 2017 年優勝者とろサーモン、2018 年優勝者霜降り明星、2019 年優勝者ミルクボーイのネタ 3~6 本を見た。M-1 優勝者計 6 組のネタを視聴しボケの数を数え、1 分当たりのボケの回数を比較する。ここでいうボケの定義は冗談を言う、話題の中に明らかな間違いや勘違いを織り込む笑いを誘う動作を行うなどをして笑いを誘うこととした。(wikipedia より)

3. 結果

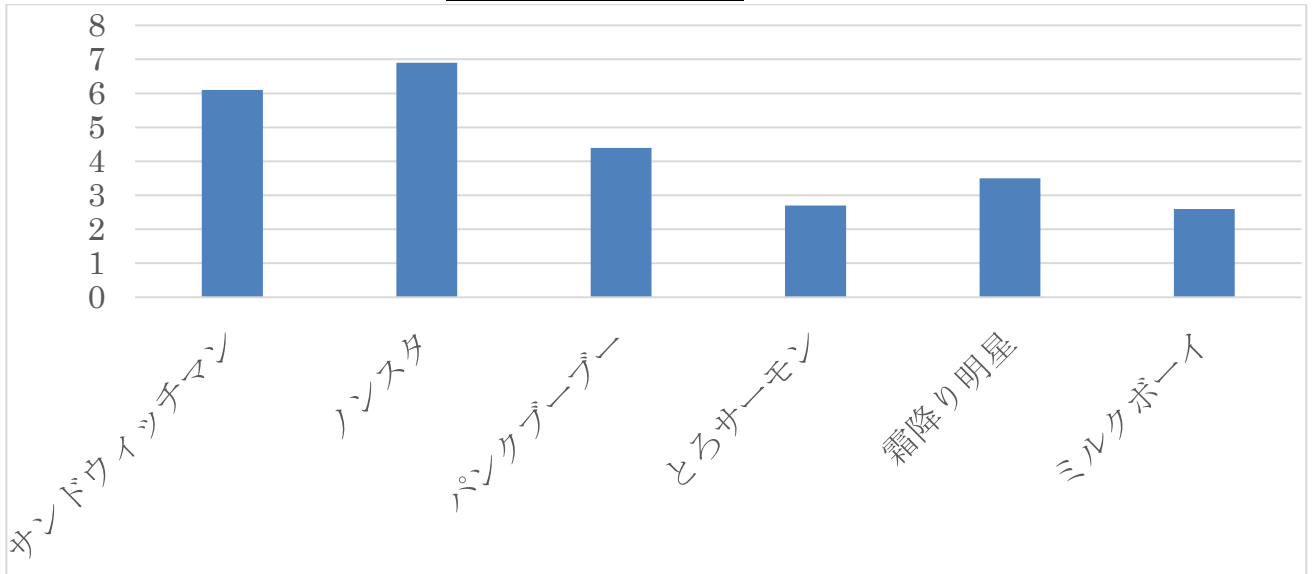
1 分当たりのボケの回数は 2007 年のサンドウィッチマンは平均 6.1 回。2008 年のノンスマイルは「昔」の中では最も多い平均 6.9 回。2009 年のパンクブーブーは「昔」の中で一番少ないものの、4.4 回となった。

「現代」の 2017 年のとろサーモンは平均 2.7 回。2018 年の霜降り明星は「現代」の中では最

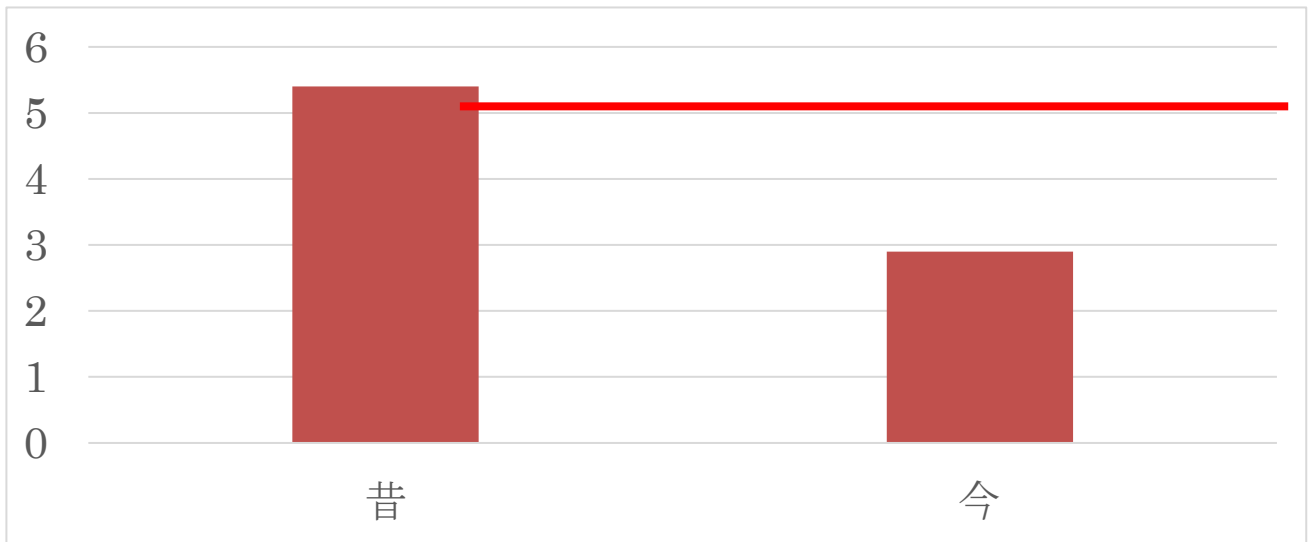
も多い平均3.5回。2019年のミルクボーイは今回計測した中で最も少ない2.6回であった。

さらに「昔」の3組のボケの1分あたりの平均回数は5.4回で、「現代」の3組のボケの平均回数は2.9回だった。

各組の平均ボケ数



昔と今の比較



4. 考察

結果から、「現代」の漫才師は昔に比べてボケが少ない傾向があるため、漫才にもファッションなどと同様にその年代ごとにスタイルの「流行り」があると考えた。以上のことからこれからのお笑いのボケは減少していき、よりテンポのゆったりとした間を使った漫才が主流になると考えた。

5. 結論

十年前は「ボケ」がお笑いの中心であったが、現在のお笑いには「ボケ」が減ってきている。これは「ボケ」以外のお笑いの要素があるということであり、漫才の形式にも流行りがあることが分かった。近年お笑い第七世代と呼ばれるお笑い芸人が台頭してきて、また新たなお笑いのスタイルが確立されてきている。次はどのようなお笑い芸人が出てくるのか楽しみだ。加えて考察後半に書いたことを立証するために、もう一世代前の漫才のスタイルについても調べてみたい。

6. 参考文献

・ <https://www.youtube.com/?gl=JP&hl=ja>

・ 村瀬健『最強のコミュニケーションツッコミ術』祥伝社新書